科目名称:	実用マナー	寅習(後期)		
担当者名:	米澤 典子			
区分			授業形態	単位数
専門教育	科目		講義	1

授業の目的・テーマ

社会生活の中でお互いが気持ちよく生活したり仕事をしたりするためには、マナーが必要不可欠です。食事や冠婚葬祭などの日常的なマナーについて学修します。

授業の達成目標・到達目標

マナーとは何か、なぜマナーを学ぶ必要があるのかについて理解ができ、日常的なマナーに関する知識を修得します。

ビジネス	実務学科	ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	重点項目
DP(1)		標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値 良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (2)		、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビ するための協働的な実践力を身につけている。	
DP (3)		野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修 得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができ	0

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)		50	40	10	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容(内容・経験年数を記載)		
あり	《内容 1》	《経験年数1》	
	《内容 2》	《経験年数2》	
	《内容3》	《経験年数3》	
	《内容 4》	《経験年数4》	

備考

日常生活における出来事にはマナーが伴います。様々なシーンにも気後れせずに、すぐに実践できるマナーや振る舞い方の知識を収めてゆきます。知識の習得だけでなく、そのマナーがなぜ必要なのか?マナーの意味を共に考え、意見を出し合いながら、理解を深めてまいりましょう。

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
マナーに対する習得の姿勢と理解度	マナー習得の姿勢が非常に 積極的で十分に理解するこ とができている。	マナー習得の姿勢が積極 的で十分に理解すること ができている。	マナー習得の姿勢はあり、理解もほぼ出来ている。	マナー習得の姿勢が不十分で、理解するには努力が必要。
ディスカッションへの参加度	意見を十分に持ち、積極的 に相手に伝えることができ 十分に傾聴できている。	意見を持ち、相手に伝えることができ十分に傾聴できている。	しは伝えることでき、傾聴	意見がなく、相手に伝える ことが乏しく、傾聴の姿勢 が見られない。
外部ホテル研修での取り組み	率先垂範かつ、率先励行でき、表情も非常に良く、参加姿勢は非常に積極的である。	く、参加姿勢は積極的で		表情が乏しく、受ける 態度にも努力を要す る。
授業内実演での取り組み	率先垂範かつ、率先励行でき、表情も非常に良く、参加姿勢は非常に積極的である。	く、参加姿勢は積極的で	表情はやや乏しく、率先 的ではないが、受ける態 度はもっている。	表情が乏しく、受ける 態度にも努力を要す る。

授業の内容	宮・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間 (分)
第1回	マナーとは何か なぜマナーを学ぶのか (ディスカッション)	日頃意識しているマナー(食事を含む) を書き出しておくこと。	05分
第2回	食事の基本マナー	食事の基本マナーを復習しておくこと。	15分
第3回	食事のマナー(和食編)	和食のマナーを復習しておくこと。	15分
第4回	食事のマナー (洋食編)	洋食のマナーの復習をしておくこと。	15分
第5回	食事のマナー (中華編)	中華のマナーの復習をしておくこと。	60分
第6回	テーブルマナー講習 (ホテル研修)	テーブルマナー講習のメモをまとめてお くこと。	15分
第7回	冠婚葬祭のマナーとフォーマルウエア①(婚礼)	婚礼のマナーの復習をしておくこと。	15分
第8回	冠婚葬祭のマナーとフォーマルウエア②(葬儀)	葬儀のマナーの復習をしておくこと。	15分
第9回	冠婚葬祭のマナー③(その他)	友人の結婚式に参列するときにどのような服装で行くか、インター ネット等で自分なりに好きなコーディネートを探してプリントアウ トしてくること。	15分
第10回	ビジネスにおけるマナー(第一印象・お辞儀・名刺交 換)	ビジネスマナーの復習をしておくこと。	15分
第11回	贈答のマナー	贈答のマナーの復習をしておくこと。	15分
第12回	日本のしきたり・通過儀礼と行事	しきたり・通過儀礼・行事の復習をして おくこと。	15分
第13回	訪問とおもてなし	訪問とおもてなしの復習をしておくこ と。	15分
第14回	テーブルマナー講習の振り返りとその他の食事マナー	テーブルマナーのレポートを書いておく こと。	60分
第15回	実践 日本茶の種類と急須での淹れ方	内容を復習しておくこと。	15分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。 確認テスト50%、課題レポート40%、授業への貢献・積極的関与 10%

課題に対してのフィードバック

課題レポートに対して、解答とコメントをフィードバックする。

教科書·参考書

マナー&プロトコルの基礎知識 NPO法人日本マナー・プロトコル協会 発行教科書の該当ページを開きながら解説を行う。